

第113回日本病理学会総会 心筋生検研究会コンパニオンミーティング Cardiac Biopsy Conference (CABIC)

3月28日(木) 18:40~20:10

名古屋国際会議場

3号館3F 国際会議室

「朝焼けの天守閣」名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所HPより引用

“どうする心臓病理”

Guide to Cardiovascular Pathology

座長 (オーガナイザー)

植田初江 (北摂総合病院 病理診断科・国循)

加藤誠也 (済生会福岡総合病院 病理診断科)

講演

中山貴文 (名古屋市西部医療センター 循環器内科)

伊達恵美 (市立岸和田市民病院 病理診断科)

池田善彦 (国立循環器病研究センター 病理部)

敬称略

企画に際して：心臓病理は難しい、とりつきにくいと敬遠されていないでしょうか？ この度は、若手病理医や心臓病理が苦手と思われる皆さんの殻を破るお手伝い出来るようにセッションを企画しました。組織のハンドリングやレポート作製においては、「臨床家が病理に検体を出す時に何が知りたいのか？」を意識することが大切です。循環器専門医に病理検査に期待することを述べて頂きます。診断病理の最前線で研鑽されている一般病理医の先生には「心臓病理について困っていること」を率直に提示頂き、研究会メンバーを交えて具体的な解決方法を考えたいと思います。剖検心の所見はしばしば死因の検索に大きく影響します。多忙なルーチン業務の中、心臓をどのように観察し、切り出し、鏡検したら良いのでしょうか。経験豊富な先生に判り易く解説して頂きたいと思います。参加者の皆さんに少しでも心臓病理を好きになって頂ければ幸いです。

病理学会員でないCABIC会員の方がコンパニオンミーティングのみに参加される場合、学会参加費は無料です。直接会場へご参集下さい。

中山貴文Takafumi Nakayama、瀬尾由広Yoshihiro Seo

名古屋市立大学大学院医学研究科 循環器内科学

Department of Cardiology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences

循環器内科医が心筋生検病理レポートに期待する事

What do cardiologists expect in a pathological report of myocardial biopsy?

循環器内科医と病理医の両者が心筋生検の意義を理解し、循環器内科医がその症例において心筋生検から知りたい事を明確にしておき、病理医がその答えをレポートに記載する。侵襲的に得た検体を病理検査へ提出するのだから当然の事であるが、現状の臨床現場は必ずしもそうではない。急性の心機能悪化、慢性の低左心機能、肥大型心筋症など、それぞれの病態において心筋生検で確認したい所見が確かにあるが、まだ十分に浸透していないと言えるだろう。本セッションでは、循環器内科医の立場から「病理レポートに期待したい内容」を、臨床像に合わせて系統だて、また近年蓄積されてきたエビデンスを交え、皆様に共有したい。

伊達恵美Emi Date、飯塚徳重Norishige Iizuka

市立岸和田市民病院 病理診断科

Department of Diagnostic Pathology, Kishiwada City Hospital

一般病理医からみた疑問点

Questions from a general pathologist

循環器疾患は心疾患、大動脈・冠動脈疾患、血管炎・血管奇形、弁膜疾患に大きく分類されるが、本演題では心臓病理にフォーカスを当てる。剖検心あるいは心筋生検をみたときに、日常的に遭遇する所見から、あるいは稀な疾患でも重要と考えられる疾患について、一般病理医が診断をおこなう時に浮かぶ疑問点を循環器専門病理医に提示して解決の道を探る。一方、循環器内科医から求められる臨床的疑問点に回答するための検索法や評価法について一般病院で行えることと今後の課題点について将来展望も見据えた議論をしたい。日常的に遭遇する疾患として心筋梗塞や狭心症、突然死が挙げられ、稀な疾患としては肥大型心筋症、拡張型心筋症、心筋炎、免疫チェックポイント阻害剤関連心筋炎、悪性リンパ腫の心臓への浸潤など自験例を提示しながら、一般病理医が行う日常診療・診断業務に役立つ“心臓病理のコツ”を循環器専門病理医を交えて考える。

池田善彦 Yoshihiko Ikeda

国立循環器病研究センター病理部

Department of Pathology, National Cerebral and Cardiovascular Center

心血管病理の検索法と留意点

Anatomic considerations and examination of the cardiovascular system

当院で行う病理解剖において留意している点を中心に、特にマクロ像に主眼を置き正常の心血管系と比較しながら個々の疾患を提示する。心臓の外観から始まり、冠動脈の分布や割を入れ展開した際の留意点として、病因の違いによる肥大様式の違い、弁の形状、心房心室の内面、刺激伝導系の位置と切り出し法に加えて、大動脈逆行解離での心嚢及び心臓の検索の進め方など、コンサルテーションの多い突然死例で留意すべき点や臨床医に伝える有意所見の有無を同定するためにどのような切り出し法が適しているかについて解説する。さらに、治療の進歩に伴い冠動脈ステントや大動脈ステントグラフトをはじめとする様々な治療用デバイスを解剖時に目にする機会も多いことから、心臓内外に留置された各種デバイス装着例についても紹介する。諸疾患の典型例を提示することにより、どのようなマクロ所見が得られた際に、どのように検索を進めていくのかについて焦点を絞り解説する。

